

講演要旨

二つの戦後と「人間の尊厳」——社会統合の新たな理念としての「尊厳」

梶山女学園大学教授/一橋大学名誉教授

加藤泰史

現代社会ではグローバリゼーションに伴い、さらに新自由主義的政策も相まって個人化が急速に進行した結果、社会の分断と格差が至るところで生じている。すなわち、連帯の喪失である。したがって現代社会の喫緊の課題は、「何が社会を新たな統合へともたらすのか」という差し迫った問いという形で言い表したり、あるいは「現代社会において統合の新たな理念はそもそも何であるのか」という規範的な問いとして表現したりできる。こうした問いに対して私は、「尊厳」の重要性を強調したい。しかし、この「尊厳」概念は必ずしも明確な規定が与えられているわけではない。したがってこの講演では、「尊厳」の概念史を押さえながら、第一次世界大戦と第二次世界大戦の直後にこの概念をめぐってどのようなドラマが展開されたのかを説明した上で、「人権」と「人間の尊厳」の関係を踏まえて、現代社会の新たな統合原理として「尊厳」を提案してみたい。

以上